資料１　教育関連項目集成
Reference mat. 1. Compilation of the educational terms in Kume's Be-O Kairan Jikki.

凡　例

1．原典記述、事項説明、「回覧実記」日付（陰、陽暦並記）、関連注、記載編頁に分けて示した。例えば、①42は岩波文庫版第一編北亞米利加合衆国ノ部第42頁のように示す。したがって、明治11年10月刊大久保利謙（1976）の松尾章一による年譜（pp.328-361）とは頁が違う。また、この年譜に記載されていないものを（現著者注、大久保1976に記載なし）で示した。

2．原典は「漢字・片仮名」書きである。その他の校注者の解説および本論文著者の注書きは「漢字・平仮名」を用いた。

3．〔　〕内は、「2005　久米邦武編著　水澤　周訳注」から関連あるものを引用した。巻数（丸数字）と頁数で表示した。

4．長文にわたる場合は適宜省略した。

例　言

原典記述	事項説明		記載頁
各省理事官ハ、各国政教兵備ノ　底細ヲ視察歴訪シ、報告ノ書、数大部ヲナセリ、	米欧回覧実記に関する例言		9
皆一行ノ健勉ヲ祝セサルナシ、			13
西洋ノ学芸ニ、「タオリック」（理論）「プラチック」（実験）ヲ分カツ、理論ハ普通ノ通則ニテ、実験ハ各地ノ活機ヲ、習煉悟得スルモノニテ、偏廃スベカラス、			14
各書ニ就テ学ヒテ可ナリ、			16

目録　初編

原典記述	事項説明		記載頁
普通教育	第二巻		30
「ランマン」女学校	第三巻		
「リンコールン」小学校教官俸給ノコト			
「オヽクランド」学校回覧	第四巻		31
兵学私校　盲唖院			
「モンテインホール」学校及ヒ「モルガン」商業学校	第六巻		33
市高俄府小学校	第八巻		34
黒人学校	第十一巻		35
「スミソニヤン」学校	第十二巻		
「アナポリス」府海軍学校	第十三巻		36
「ウェストポイント」ノ陸軍学校	第十四巻		
陸軍生徒教練試験			
「ジラルト」学校	第十八巻		38
蹇児院	第十九巻		39
波士敦大学校	第二十巻		40

第一編　北亜米利加洲合衆国ノ部

「初編ハ西航ノ始メニテ、注意多ク風物ノ異ヲ采論スルニアリ」①13

原典記述	事項説明	「回覧実記」日付・注	記載編頁 ①は編数
女学生四名モ皆上船シ、（校注によれば、五名）	太平海航程ノ記	明治4/11/12 陽暦1871/12/23	①42
○此国ハ土曠ニ人稀ナル新州ナレハ、経国ノ業ハ殊植民ニアリ、～各国ノ流民ハ、大抵懶惰ノ頑民ニテ、～教育保護ノ法、多少ノ力ヲ要ス、	米利堅合衆国ノ総説		①69
○学校ノ教育ハ、普通ニ手ヲ尽セリ、小学校ノ多キト、新聞紙ノ多キ、入学ノ童子ノ多キトハ、諸国ニ超越ス、～全国大小学校ノ総数ハ、十四万千六百二十九ヶ所、～教師～、生徒～、学費諸料～、其内生徒ノ家ヨリ出セル学費ハ、～取立タル学税、～其余ハ学校ノ～、所有物～○教育ノ方法ハ、大政府ヨリ格別ニ注意セス、各州ノ自定ニ任ス、各州ノ政府ニ於テハ、之ヲ民政中ノ一大事務トナシ、毎年州ノ議院ニ於テ、学税ヲ議定シ、～建校勧学職制等、ミナ州々ニテ思ヒ思ニ其周備ヲ競フ、故ニ全国一規ノ学制ハアラサルナリ、但其大要ハ、合衆国ノ本領ニヨリ、人民ノ意ニ任セ、人々自ラ奮発セシムルヲ旨トス、故ニ欧洲ノ如ク父兄ヲ督責シ強テ厳法ヲ以テ迫リ、子弟ノ入学ヲ促スコトナケレトモ、人ミナ不学ヲ恥テ、自怠ラサルハ、合衆国ノ気習ニテ、自由寛政ノ実行ト謂ヘシ、			①70-72

但「マッサッセチュ」一州ハ、童男女ヲ入学セシメサル父母ニハ、二十弗ノ過料ヲ収ムル法ヲ、～勧学ノ法ハ、～各州ニ於テ、学校ヲ平民ト～、○此国ニ植民ノ初メハ、教育ノコトモ本国ノ法ニヨリ、西班牙人ノ「シント、オーゴスタン」ニ移リ、～等一家ノ民族、或ハ僧徒ノ内ヨリ、総代人ヲ挙テ、教育ノ世話ヲサセタレトモ、(「マッサセッチュ」～) ニテハ、教育ノ権ヲ僧徒平民ニ委セス、政府ニテ管轄ナシタルニ、僧徒平民ニテ支配スル学校ハ、開智ヲ進歩スル主要ヲ失ヒ、政府支配ノ州々ハ、其効著シカリシヲ以テ、各地頓テ之ヲ廃止シ、政府ニテ司ルコトトナシタリ、只蓄奴ノ行ハレシ南方ノ諸州ハ、兎角其挙モ行ハレサリニ、近年南北ノ戦熄テ後、ミナ之ヲ廃止シ、今日各州ノ政府、ミナ学校ヲ支配セサル所ナシ、其他ノ学制モ、東北ノ諸州ヨリ始リテ、各州ニオヨヒ、各其民宜ヲ酌ミ折衷セシヲ以テ、大同小異ニスキスト云、○大学校（「ユニヴァルシチー」「コルレーチ」ト称スルモノ）ノ総数ハ、全国ニ三百六十九ケ所アリ、～其内ノ於テ著名ノ大校ハ、「ケンブリッチ」ノ「ハルワイト、コルレーヂ」ニテ、～亜匹スル大校ナリト云、其他法律学校二十八ケ所、師範学校八十一ケ所、書庫ノ数百六十一ケ所、盲院二十二ケ所、唖院二十六ケ所、癲院五十一ケ所アリ、[癲院は知能障害者のための教育施設①60]			
○朝十時ヨリ、「ランマン女学校」ニ至ル、此校ハ～教フル所ハ文典校（グラマルスクール[八年制の基礎学習を行う学校、①82]）普通ノ諸科～ ○夫ヨリ「リンコールン」小学校ニ至ル（又「グラマルスクール」）、此ハ市中童男ノ小学校中ニテ最大ナルモノナリ、 ○此外桑港ノ全府ニ、四十ケ所ノ小学校、二ケ所ノ中学校（男女各一）アリ、	サンフランシスコ滞在中、所在地不明　訪問	12/14 1872/1/23	①88 ①89
○此日随行ノ官員ヲ派シテ、「オヽクランド」ノ学校ヲミセシム、「オヽクランド」ハ米国ノ西方ニテ、有名ナ文教場ナリ、小学校区アリ、大学校モ亦数館ヲ備フ、兵学私校アリ、盲唖院アリ、～○兵学私校ハ某氏ノ建造ニテ、大政府ノ免許ヲ受ケ、子弟ヲ取立ル処ナリ、○盲唖院ハ、全州政府ノ公校ニテ、～○大学校ハ、邑中ニアリ、～所謂「ユニヴァルシチー」ナルモノナリ、	オヽクランド、随行官員を派遣、各校・院の解説	12/20 1/29	①97-99
問、(インジアンを) 教諭スレハ開化ニ赴クヘキヤ、 答、「ホヘブラフ」郡（村落ヲ云）人種ハ教ヘテ開化ニ赴カシムヘシ、他ノ「インヂヤン」人ハ化スヘカラス、	ネバダ・ユタ州における「インジヤン」に関する情報	12/25 2/3	①134
「モンテインホール」学校ニ至ル、男女九歳ヨリ十七八歳マテノ童生百五十人ヲイレテ教フ、～「モルガン」商学校ニ至ル、此学校ニテハ諸色ノ取引、帳簿ノ附控ヘヨリ（即記簿法）、貨物運動ノ理ヲ教ユル所ナリ、	ソルトレイキシチー訪問	晦日 2/8	①145
米国ノ紳士ミナ熱心ニ宗教ヲ信シ、盛ンニ小学[基礎教育、①168]ヲ興シ、高尚ノ学ヲ後ニシテ、普通ノ教育ヲ務ム、是其故ヲ察スヘシ、	解説	明治5/1/17 2/25	①162
夫ヨリ小学校二ケ所ニ至ル、男女ヲ併セ容ル、略「オヽクランド」ニ同シ、	シカゴ訪問	1/19、2/27	①176
朝、六時ヨリ大久保副使発程シ、「ニューヨルク」ヲ経テ帰朝セリ。	ワシントン訪問	2/12、3/20	①212
夜第八時ヨリ、伊藤副使発程シテ帰朝セリ、		2/13、3/21	
黒人学校ニ至ル、～故ニ黒人ノ公学校ヲ興シ、白人同様ニ教育ヲ受ケシムレトモ、猶其校ヲ異ニセリ、～督学ハ只二人アリ、其一人ハ黒人「コック」氏ニテ、黒人ノ学校ヲ総提シ、下ニ執事数人アリテ、教育ノ税金、～黒人ノ少年ヲ入レテ、～大学ノ科ニスヽミシモノモ少ナカラス、～十余年ノ星霜ヲ経ハ、黒人ニモ英才輩出シ、白人ノ不学ナルモノハ、役ヲ取ルニ至ラン、		2/17 3/25	①213-216
「スミソニヤン」学校ヨリ招待状来ル、山口副使之ニ赴ク～諸国ニ建タル学校ノ一ナリ、～中央ニ学校アリ、～～府中屈指ノ大校ナリ、		3/10 4/17	①228
各州ニ農学校ヲ建設スルコトヲ定メタルモ、～学校ヲ維持スルヘキヲ布告	ワシントン解説	3/23、4/30	①242-243
～一行スヘテ、～「アナポリス」ニ至ル、～（海軍）学校～ニ入ル、～米国ノ官邸ニ女ヲ入ルヽヲ禁セス、海陸ノ軍校ニモ、	アナポリス訪問	3/27 5/4	①247
ウェストポイント陸軍校			図版264
（ウェストポイント）陸軍学校ヲ建ツ、～学校ニ至ル、西洋諸学校ハ夏冬ニ試業ヲナシテ一休ス、	ウェストポイント訪問	5/6 6/11	①265-269
（ウェストポイント）学校ニ至リ、生徒ノ教練ヲミル、～我邦人ノ米国ニ学フモノ、海軍校ハ已ニ入校ヲ許シタレトモ、陸軍省ハ枢機ニカヽルトテ、今ニ外国人ノ入ヲ許サス、		5/7 6/12	
（ヒラデルヒヤは）文教モ亦有名ナリ、～学校ノ総数ハ、三百八十余ケ所、	ヒラデルヒヤ解説	6/24	①321-322
「ヂラルト、コルレーチ」ニ至ル、此大学校[この大きな学校、①.364]ハ～「ヂラルト」氏ノ創建セル校[これだけではこの学校の性質はよくわからない。～久米ノ記述によるとこの学校はカレッジとは呼ぶものの、貧しい少年たちに基本的な言語教育を施す機関だったように思われる、～①注377]（補足７）	ヒラデルヒヤ訪問	7/29	①325

夫ヨリ少年教会堂[青年クリスチャン協会（YMCA）、①383]ニ至ル、～其屋造ハ、略学校ニ類ス、 学校ノ報告五百0二～当府ノ大学校ハ、高名ナル教鑒ナリ、	ニューヨルク訪問、解説	6/26 7/31	①342 ①349-351
（ボストン）市中ヲ巡回シテ、学校ニ至ル、～暑中休業ニ際シ、其詳カナルヲミルニヨシナカリキ、～波士敦ノ学校ハ～亦能ク教育スル、	ボストン訪問	6/28 8/2	①356-357
木戸がこの皮相な開化と、底の浅い日本の文明の克服をめざして、教育制度に関心を払ったのも十分理由のあることだったのである。	「回覧実記」 校注者の解説		①397

目録　第二編　英吉利国ノ部

原典記述	事項説明		記載頁
学教	第二十一巻		9
倫敦市中ノ小学校	第二十五巻		11
美爾索河船学校	第二十七巻		12
「オウン」学校	第二十九巻		13
教壇ノ遺石	第三十二巻		15

第二編　英吉利ノ部

「二編三編ハ、工芸制産ヲ詳審スルヲ務ム」①13

原典記述	事項説明	「回覧実記」 日付・注	記載編頁 ②は編数
英国ノ学校ハ「カンブリッチ」ト「オキシホール」、両所ニ建タル大学校、尤モ盛大英国ノ鄒魯トモ云ヘキ所ナリ、[鄒は孟子の生まれたところで、魯は孔子の故郷である。転じて孔孟の学を指す。古典的学問の発生の地とでもいうことであろう②訳者注31]	英吉利国ノ総説		②41-42
此ノ博覧館ハ、～書籍教育ノ具ヲ陳セル区アリ、～付属ノ学校ヲオキテ、～教育ヲ興サント議ヲ起セシハ、	ロンドン博覧館見学、解説	7/16 8/19	②65-66
（プライトンの）学校ニ至ル、～学校ヲ出テヽ、～[当時のプライトン・デーリー・ニュース紙の記事によると、これは学校ではなく、英国地理学会の集まりで、②　訳者注72]	プライトン訪問	7/17 8/20	②70
（ロンドン）府中ノ小学校ヲ一覧ス、～童男童女ヲ教育スル小校[学校②102]ハ、～唱歌ナトヲ教ユ～、女子ニハ～ノ業ヲ教ユ～技芸ヲ授クル～是其、愈学ンテ～。此校ニ又五六歳ノ幼稚ヲ教フル～女教師一人～教フル所ハ～学芸～学知～教育ニ注意ヲ～幼稚ノ学教ニ注意シ、～倫敦ニアル内ニテ、学校ヲ見タルハ、唯此一ケ所ナリ、凡ソ倫敦中ニ、公校[公立②103]二百五十、義校[私立②103]～英国ノ大学校ハ、「オクスフォルト」ニアル～、次ニ「ケンブリッチ」ニモ、亦高大ノ学館[最もすぐれた大学②103]～	ロンドン訪問、解説	8/15 9/17	②100-101
学校ヲ建ルハ、～教育ノ未タ至ラサル所歟、	ロンドン解説	8/25, 9/27	②115
小学校ノ幼生[低学年②145]男女～	リヴァプール訪問、解説	8/30 10/2	②135
図引ノ学ハ、小学普通ノ科ニオキ、皆人之ヲ学フ、			②141
船学校[商船学校②p.154]ヲ見回ル、船学校ハ、～政府ヨリ学校ニ与ヘタリト、～水夫ノ働キヲ教ヘル船ナリ、～同様ノ悪児[非行のあった少年たち②155]ヲ入レ、教ユル所ニテ、			②142-143
牢獄ニ至ル、～勉強シテ、～勉強スルモノハ、～勉強ノ習癖ヲ生シ、	メンチェストル牢獄における生活	9/3 10/5	②165-167
「オウン」学校[オウンズオウエンズ・カレッジ②205]ニ至ル、～此学校ハ府中ノ繁華ニ比スレハ～	メンチェストル訪問	9/6 10/8	②183
（ウェストパーク）園前ニ哥羅斯哥「ユニヴァルチシー」[グラスゴー大学②222]アリ、此大学校ニ～高名ナル大学校ナリ、	グラスゴー説明	9/8 10/10	②198
大裁判所～ニ至ル、～傍ニ学校アリ、～大学校＜「ユニヴァルシチー」＞ニ至ル、～大学校ハ、一年ニ出入ノ書生二千人、～此校ハ高名ノ学宮ナリ、	エデンボルグ説明、訪問	9/12 10/14	②209-211
此河口（「タイル」河）ニモ、～船学校[水夫養成校②324]（現著者注、大久保1976に記載なし）アリ、性質ノ悪シキ子弟ヲ入テ、水夫ノ業ヲ教習ス、	ニューカツソル訪問	9/21 10/23	②281
（ソルテヤ）邑中ニ小学校ヲ建ツ、村民ノ子弟男女ヲシテ、半日ハ場[工場②331]ニ出テ、業ヲ操リ、半日ハ校ニ入リテ教ヲ受ケシム、学知ト実験ト、互ニ相進メル良法ニテ、	ヨークシャ州「ブラットホール」	9/23 10/25	②286
「サー・クロスリー」氏ヨリ建立セシ学校[クロスリー孤児院・学校②340]アリ、其校ニ至ル、	ハリファックス訪問	9/24 10/26	②294-295

「チャンセ」氏ノ製造場ニ至ル、～場内ニ学校（現著者注、大久保1976に記載なし）ヲ設ケ、～小学普通ノ学ヲ～	バーミンハム訪問	10/4 11/4	②336
東洋人ハ実験ニ巧者ナリ、西洋人ハ術理ニ達者ナリ、東洋ノ巧ミナルハ手術ニアリ、西洋ノ巧ミナルハ器械ニアリ、	ロンドン解説	11/11 12/11	②378
「普通ノ教育」に力をそそぐアメリカの実情をみて、使節団は、東洋ひいては日本が～	「回覧実記」校注者の解説		②416

目録　第三編　欧羅巴大洲ノ部　上

原典記述	事項説明		記載頁
教育	第四十一巻		9
「ニコールサンシール」陸軍学校	第四十五巻		11
建築学校　礦山学校	第四十六巻		12
唖院　盲院	第四十八巻		
人種教育	第五十二巻		15
国府大学附属ノ博物館	第五十三巻		
教育	第五十五巻		16
伯林大学校	第六十巻		18

第三編　欧羅巴大洲列国ノ部　上　仏朗西国、白耳義、荷蘭佗

「二編三編ハ、工芸制産ヲ詳審スルヲ務ム」①13

原典記述	事項説明	「回覧実記」日付・注	記載編頁 ③は編数
巴黎ノ礦山学校ハ其設ケ宏大ニテ、	仏朗西国総説		③30
教育ハ、近年ノ進歩、甚タ渋鈍ナレトモ、全国ノ男女ニ、無学無筆ノモノハ、百ニ三十ニスキス、蓋此国ノ文化ハ、各地方ニヨリ、甚タ不平均ナリ、			③35
此日英国辨務使ヨリ、日本ニテ、改暦、及ヒ服制改正アリシ、電信到著ノコトヲ報知アリ、因テ来月三日ヲ、新暦明治六年第一月一日トスル旨ヲ衆ニ公布ス、（十二月三日を明治六年一月一日、一千八百七十三年、一月一日とすること）		11/22 12/22 (改暦の通知)	③62,65
「アンファンド、ツルウェー」ニ至ル、棄児院ナリ～	巴黎、訪問	(以後陽暦)	③68
「ビットショーモン」ノ公苑ニ至ル、～其一帯ノ地ハ、製造所ニテ、教育モ十分ナラス、近時或ル博士、此ニ教育ノ方ヲ施サンコトヲ思考セシニ、	解説	1873.1.10	③83
会社ヨリ学校ヲ設ク、子弟ヲ教訓上達セシムヘシ、			③87
「エコール、サンシール」ノ陸軍学校ヲ回覧ス、～婦人学校ナリシヲ、～陸軍学校トナシタリ、～海陸軍校ニハ～軍学校ハ人気悪シ～仏国ノ学校ハ、多ク信徒ノ手ニアリ、是又古教新教ノ別ナリ、	巴黎、訪問、解説	1.15	③100-104
「ワンセーン」城ノ外ニ、十余町ヲ隔テヽ、「ヂューナスチック」ノ教練スル場アリ、（「ヂューナスチック」ハ開展運動術ト訳スモノニテ～）		1.18	③117
建築学校、礦山学校ニ至リ、～建築学校ハ、～礦山学校ハ～		1.20	③122-123
此ニ前ニハ礦山学校ヲ記シ、後ニハ天文台ヲ記ス、宜シク文明ノ至リ、其術ニ於テ究メサルナキ実ヲ瞭スヘシ、		1.22	③142
唖院ハ大裁判所ノ西南ニアリ、「インステチューション、デ、ハスト」ト云、～唖人ニ教育スルコトヲ、苦心思慮シテ、～此校ノ建築頗ル壮大ニテ、		1.23この記載について、③校注377-378	③152-153
盲院ニ至ル、盲院ハ之ヲ「インステチューション、デ、プライン」ト云、～仏国ノ風習、古来ハ盲者ヲ軽蔑スルコト甚タシク、～仏人「ワアレシタイン、ホーイ」氏常ニ之ヲ哀レミ、イカニモシテ教育ヲナス工夫アラント、		1.25、③校注378頁および[③注p.176]	③153-157
白耳義ノ人民ハ、三種ノ言語ヲトル、仏国ノ境ヨリ、中央ノ諸州ハ、「ベルジェツク」人種多ク、仏語ヲトル、今政府、官庁、学校、ミナ是ヲ以テ国語トス、	白耳義国総説解説		③178
学校ノ教育ハ、「カドレーキ」教僧侶ノ掌ル所ニテ、～教育ノトヽキタル国～ミナ学校ニ上ル、国内ニ三ノ大学校アリ～			③179
教育ハ、欧州国中ニ於テ、最上開化ノ地位ニオル、此国ノ民、苟モ恒産アルモノハ、不学ナル男女甚タ少シ、～ノ三地ニ、大学校アリ、	荷蘭陀国総説		③229-230
一ノ学校ヲ起シテ、末世ニ恵センコトヲ願フ、因テ其望ミニ随ヒテ、此ニ大学校ヲ起セリ、	来丁ノ記	2.28	③245
此府ノ大学校ニ付属セル博物館ハ、			③247

近年ニハ農業小学ノ設ケ盛ンニ、～大学校ヲ処処ニタテ丶、	普魯士国総説		③276
教育ハ、欧州中ニテ最上等ニ位ス、政府ノ特ニ心ヲ致ス所ニテ、各郡邑ノ人民、必ス租税ヲ以テ扶助シ、小学校ヲ立テ、～中学校ノ数、～其他技術学校、羅甸語学校等、～大学校ハ～			③284-285
府内ノ地ヲ、五区ニ分ツ、第一ヲ伯林ノ本部トス、此ニ寺院、学校、武庫、病院、孤院等アリ、	伯林府総説	3.9	③302
教会ヨリ学校ニ関スルヲ制シ、～教会ノ学校ニ関与スルハ、人民ノ心智ニ害ヲ生スルモノニテ、最モ弊アルコトナリト云、			③307-308
貴族院ハ、即チ上院ニテ、王族、～大学校ノ代人、～ニテ局ヲナス、	伯林ノ記上解説	3.12	③318
朝十時ヨリ小学校[実際に訪れたのはケーニッヒ・ウイルヘルム高校であったという、③注409]ニ至ル、～政府ヨリ設ケタル大校[国立の大きな学校③395]ナリ、	伯林ノ記下	2.23　［英訳者コビングは、このあたりの久米の日記の日付が一日ずれていると指摘③注409］	③348
伯林大学校（「ユニヴァルシチー」）、同建築学校～			③349図版
夕ニ「ユニヴルシチー[フリードリッヒ・ウイルヘルム大学、③p.395]」ニ至ル、高名ノ大学校ニテ、			③350
「唖院ハ大裁判所ノ西南ニアリ」（152頁）の注		「回覧実記」校注	③377-378
「午後二時ヨリ、盲院ニ至ル」（153頁）の注			③378-379
一行がベルリン滞在中に見学したところを、～小学校・大学校～	「回覧実記」校注者の解説		③405

目録　第四編　欧羅巴大洲ノ部　中

原典記述	事項説明		記載頁
教育	第六十一巻		9
育嬰院　聾唖院	第六十四巻		11
解剖寮	第六十五巻		
小学校並ニ小学童生ヘ授業ノ心得	第六十九巻		14
同郊外育嬰院	第七十二巻		16
「パトワ」府ノ養蚕学校	第七十八巻		18
教育	第七十九巻		19

第四編　欧羅巴大洲列国ノ部　中

露西亜国、北日耳曼（ゼルマン）、嗹馬国（デンマルク）、瑞典（スウェーデン）国、南日耳曼、伊太利国、墺地利（オーストリス）国、匈加利（ホンガリー）国「四編五編ニ至テハ、復ヲ略シ異ヲ択ミ、弥縫周備ニ意アリ、故ニ回覧ヲ略セル所ニモ、亦其国ノ特美ナキニハ非ス」①13

原典記述	事項説明	「回覧実記」日付・注	記載編頁 ④は編数
教育ハ一千八百六十五年ニ学校ノ数三万三千ニ及ヒ、～小学、語学校、～大学校、～医学校～「ズリッキ」ノ大学～	露西亜国総説		④36-37
総テ皇族ノ所得ハ、～其内ヨリ四十五万（磅）ヲ以テ、施済学校、劇場費ニ公捐スルノ外、	聖彼得堡（セントペートルボルク）ノ記解説	1873.4.3	④68
育嬰院[乳幼児養護施設④89]ニ至ル、育嬰院ハ、子ヲ挙ゲテモ、自ラ鞠養スルヲ得サル、貧民ノ子ヲ収メテ、育成スル所ナリ、～是其育嬰院ヲ宏大ニ設ケル所カ、○院ノ屋造ハ、四層ノ高宇ニテ、	訪問	4.9	④91-93
○聾唖院モ、亦頗ル宏大ナリ、～其教育ノ大般ハ米仏ニテ視ル所ニ同シ、此院ニテハ、唖子ハ一般ニ発声ヲ教フ、			④93-94
夫ヨリ河南ナル、礦山学校ノ博物館ニ至ル～		4.10	④96
医学校附属ノ解剖寮ニ至ル、～入校ノ生徒ニ、蒙古人、満州人アリ、又女医生モアリ、露国ノ婦人ハ、大学校ニ入リテ業ヲ講スルモノアリ、他国ノナキ所ナリ、～欧洲ニテ婦人ノ大学校ニ入ルハ、露国ト瑞士トノミ、	訪問	4.11	④101
○医学校ハ、築造更ニ宏大ナリ、			④102
日耳曼ノ侯伯貴族ハ、～学芸技術ニ努力シ、	北日耳曼前記		④113
印税、官給税ニテ、～其四分ノ一ハ教育、施済、警察、裁判ノ費ナリ、	阜堡府（ハムベルヒ）	4.17	④124
行政権ハ国王ヲ大統領トナシ、内閣議官七人ヲ命ス、総裁、外務、内務、教育、司法、会計、軍務ナリ、	嗹馬国ノ記		④137
一千八百七十年ノ検査ニ於テ、全国民千人ノ比例ニツキ、農民四百五十四人、～僧俗教員十七人、～学術家六人、			④139
学校ノ教育ハ、一般ニ行ハレタルコト、欧洲ニ於テモ、比較スル国ハ多クアラス、			④141

前時女王ノ宮殿ヲ以テ、詩歌、画図、彫像等、雅芸ノ学校ヲ設ケタリ、	コッペンハーゲン	4.22	④152
瑞典人ハ活潑ニシテ、智巧アリ、酷タ学芸ヲ好ミ、～両国ノ学校教育甚タ至ル、農夫ト謂トモ、書写ヲ解セサルモノ殆ト希ナリ、教育ノ会社流行シ、～是其一般ニ教育ノ行ハルヽ所以ナリ、	瑞典国ノ記		④166-167
兵学校ニ至リ、	ストックホルム訪問、解説	4.27	④182
小学校ニ至ル、当府高名ノ大校ナリ、～大抵貧民ノ子女ニテ、普通ノ学科ヲ教ヘ、出校ノ後ハ、各其家業ニツク、一切ノ費ハ、学校ニテ辨シ、家家ヨリ出スコトナシ、学費ハ市中ヨリノ醵金ナリ、		4.29	④190-191
一般ノ生徒ニ、悟解暗記ニ困ナラシムルコトアリ、之ヲ強テ課責スレハ、幼童ヲシテ学問ヲ厭棄スルノ心ヲ生セシメ、却テ終身ノ大害ヲ引出シ、～其向文ノ心ヲ塞クニ至ル、此注意ハ、普通教科ノ最モ要項ナリト、～西洋ニテ、小学普通ノ業ヲ授クルハ、皆平易浅近ノ教ニテ、男女貴賤ヲトハス、苟モ生命ヲ保続シ、人生ノ快楽ヲウクルニハ、一モ知ラサルニ付シ難キ科ノミ教ユルノミ、			④191-193
苑外ニ育嬰院ノ学校アリ、～コノ外当府ノ大学モ亦高名ナリ、	南日耳曼　ミュンチェン	5.6	④247
教育ハ、「サルジニヤ」一統ノ後、一千八百六十三年ニ、無丁字ノ男女、一千七百万ニ及ヘリ、政府意ヲ鋭ニシテ、教育ノ方ヲツクシ、諸教会ヨリ没入ノ財産ヲ、学費ニ共シ、学政ヲ拡張シ、全国ニ三十三ケ所ノ大師範学校ヲオキテ、教育ヲ奨励シタリ、	以太利国略説	5.8	④271
首都「グラーツ」府、人口八万、大学校ヲオク、	墺地利国総説		④361
教育ハ、普魯士ニハ及バザレトモ、近代翹ニ進歩シ、殊ニ独逸地方ニハ、中小学校周備シテ、教育一般ニトヽキタリ、～職業ヲ務ムル時間ヲ妨ケザラシム、	首部「グラーツ」		④374-375
墺国ノ政体ハ、～各州会ニテ地租、田野、学制、教法、救助、土木ノ事ニカヽル法ヲ商立ス、～行政官ハ内閣総裁、内務、教務、会計、商務、農務、兵務、司法ノ八省ヲ分ツ、	維納府総説	6.3	④391-392
墺帝ヲ奉ヒテ君トナシ、～行政官ハ、～教育～十長官ヲ分ツ、	匈加利国略説	6.15	④406
この用件実現のために、スイスは「内ニハ文教ヲ盛ンニシテ、其自主ノ力ヲ暢達ス」という。確かに使節団は、米欧回覧の全過程で普通教育に関心を払っているが、とりわけ使節団がスイスやスウェーデンの小学校に注目しているのは、右のことの関連においてなのである。これらの国々では、教育は貴賤を問わず、語学・文典学・画学・数学・国史・地理・普通究理（物理）・唱歌～それ故にこそ学校教育の中で、	校注者の解説		④439-441

目録　第五編　欧羅巴大洲ノ部　下

ズリッキ（チューリッヒ）、ベロン（ベルン）、馬耳塞（マルセイユ）、馬徳里府（マドリッド）

原典記述	事項説明		記載頁
「ズリッキ」並ニ大小学校	第八十四巻		11
「ズリッキ」府ノ大学校ノ図			
「ベロン」府ノ小学校	第八十六巻		12
教育及ヒ教門ノ弊	第八十八巻		13
人種風俗教育			14
農学ノ起リ及ヒ農学校	第九十一巻		15

第五編　欧羅巴大洲列国ノ部　下　附（ツケタ）リ帰航日程

維納万国博覧会、瑞士国、仏国、西班牙、欧羅巴、地中海、紅海、阿剌伯海、錫蘭島、榜葛剌海（ベンガラ）、支那海、香港、上海

「四編五編ニ至テハ、復ヲ略シ異ヲ択ミ、弥縫周備ニ意アリ、故ニ回覧ヲ略セル所ニモ、亦其国ノ特美ナキニハ非ス、」①13

原典記述	事項説明	「回覧実記」日付・注	記載編頁 ⑤は編数
墺地利国ハ、自国ノ会ナレハ、出品ノ夥多シキ、数廊ヲ兼ヌ、～一区ニハ、礦山学校ヨリ、地質ニカヽル絵図ヲ出ス、	万国博覧会見聞ノ記、解説		⑤38-40
教育ハ独逸語ノ部分殊ニ盛ナリ、教育ノ浹クシテ、民ニ礼アリ学アリ、生業ニ勉強スルコト此国ニ遊学シテ、大学校ニ入ルモノ絶ヘス、	瑞士国ノ記、解説		⑤56
其学術教育ハ一般ニ行届キ～小学ニ入ルモノ～大学校ノ誉レハ～中ニモ「ズリッキノ大学校」ハ～名アル学校ナリ。			⑤62

「ズリッキ」郡ハ、瑞士中ノ一大郡ニテ、～此府ハ学校ノ名誉最モ高シ、瑞士ニ常備兵ナシ、此府ニハ、兵学校アリテ、近郡ノ兵士ニ教フ、 （瑞士「ズリッキ」府ノ大学校） 小学校アリ、女学校アリ、～「ポルテクニク」教導校[ポリテクニック・スクール⑤56,61]ハ、府ノ東ニアリ、～此ハ百工ノ芸術ヲ教導スル所ニテ、高名ナル学校ナリ、～大学校ハ其南ニアリ、～医学校ハ其東ニアリ、ミナ欧洲各国ヨリ来リ学フト云、	「ズリッキ」郡	1873.6.20	⑤64-67 ⑤65図版
兵学校[軍ノ学校⑤65]ヲ設ク、	「ベロン」府	6.22	⑤74
小学校ニテ、歴史ヲ毎人ニ授クル主意モ～	「ルセルン」府		⑤83
府ノ小学校ニ至ル、～私建ノ義校ニ至ル。	訪問	6.27	⑤93-95
此府ハ仏国ノ大都会ナレハ、博物館、博古館、画楼、病院、学校、貧院[博物館、歴史博物館、美術館、病院、学校、福祉施設⑤121]アリ、	仏国馬耳塞府解説	7.18	⑤122
学校ハ府内ニ甚タ多シ、「サンヘルナンソ」ト「サンアントレ」学校ノ外ハ、男女自由ニ入学ヲ許スモノ三ケ所ニテ、学童四千ニ及フ、コノ外幼稚学校、大学校、商人学校、商法学校、算術、医術ノ諸学ミナ備ハル、	西班牙及葡萄牙国ノ略記、 馬徳里府解説		⑤134
此国教育ノ大概ハ、千八百六十一年ノ記載ニ、全国ニ小学校ノ数二万二千0六十箇所ニテ、生徒ノ総数百0四万六千五百五十八人、即チ全人口ノ五十分ノ一ニ当ル、欧洲下劣ノ地位ナリ、中学校ハ五十八箇所ニテ、此教師ハ百五十七人ナリ、大学校ハ十二箇所ニ及フ、「サランマンカ」「バレンシヤ」「サラゴサ」「バレトリット」ナドニアルヲ、重ナル大校トス、			⑤140
国教ハ、～全国概シテ、羅馬「カドレイキ」教ナリ、～方今ハ僅ニ修道院ヲ保存セルノミニテ、住僧ミナ貧ニ、～下等ノ僧ハ、僅ニ教育ヲ受ルノミニテ、殆ト農工民ニ斉シ、～学校モ、寺院ノ管轄ヲ離レテ、内務省ニテ教育ヲ管掌ス、三十年来ハ、父母ニ脅迫ノ令ヲ行ヒタレトモ、実際ニ行ハルヽコト難ク、千八百六十一年ニ、公立学校一千七百八十八所、学生七万九千百七十二人アリ、人口三十六人ニ、一人ノ割ナリ、葡西ノ両国ハ、唯露国、及ヒ羅馬領ヲ除クノ外ハ、欧洲ニテ教育ノ劣レル国ナリ、中ニモ西国ハ、普通教育コソ偏カラサレトモ、大学校ハヤヽ盛ナリ、葡国ハ大小学ヲ并セテ微ナリ、大学校ハ、只「コレンブラ」ニ一箇所アルノミ、	葡萄牙、解説		⑤145
総テ欧洲中ニ行ハルヽ、各種ノ言語ヲ大別スレハ、～抑仮音文字[表音文字⑤160]ニテ、～千差万別ヲ分チ、～故ニ欧洲ニテ、言語ノ権ヲ貴重スルノミナラス、語学ヲ重ンシ、小学校ヲ根本トス（「グラマル、スクール」ハ文典学ノ義ナリ[ヨーロッパにおける小学校の呼称であるグラマー・スクールというのは、文法学校という意味である⑤150]	欧羅巴洲政俗総論		⑤153-154
独逸ハ、勧農ノコトニ就テ、最モ欧洲中ニ超越ス、～従テ農学校ノ建立モ増加シタリ、農社ト農学トハ、互ニ親密ナル管係アルモノニテ、官立ノ学校ニテモ、私立農社ノ調査支配ヲウケシメ、又社員ノ見込ニテ、学校ノ改正ヲモナスコト普通ナリ、			⑤194
欧洲ニテ、学士ノ注意ヲ加ヘシハ、僅ニ百年以来ノコトナリ、一千七百七十一年、仏国ノ執政「ベルタン」氏ノ尽力ニテ、「コンピエーギュ」（地名）ニ、創メテ農学校ヲ立タリ、是ヲ開端トシ、有志ノ士、豪農ニ説テ、「グリキョン」（地名）ニ理論実験両備ノ農学校ヲ興シ、（テオリープラチカル）			⑤195
農学ノ設ケ種種アリ、独逸ニ於テハ、終年開校スル農業小学校アリ、只冬季農隙ノミ開校スルモアリ、夜間ニ農業ノ講義ヲ授クル夜学校アリ、～民口僅カニ百八十万ヲ有スルモ、農業小学百七十八、（夜学校六百九十七、夜会所百六十四ニ及ヒ、生徒二万、夜会ニ集ルモノ殆ト一万人アリト云、	独逸		⑤196-197
仏国ニテ「フヘルムエコール」ト云ハ、農家ヲ以テ学校トナスノ謂ニテ、即チ耕作法ヲ、実地ニ教授スル小学校ナリ、十六歳以上ノ農丁ニ賃銭アタヘ、教員之ニ充分ノ教ヲ施シテ、耕作ヲナサシム、四十年前ヨリノ創立ニテ、現今四十二箇所ニ及ヒ、大ニ農業ノ進歩ニ功績アルモノナリ、又春秋冬ノ三期ニ、官ヨリ教師ヲ出シ、農事ヲ教授スルヲ、農業州学校トイフ、	仏国		
農業学校ハ、独逸ニ於テ百八十四アリ、其内八箇所ハ、大学校ノ権ヲ有シ、次十三箇所ハ、十二人ノ博士アルモノ、其次七十一箇所ハ、中学校ニテ、他ハ暗溝、灌水、培養法等、実業ノ学校ニテ、又種園養樹ノ大中学三十三箇所～	独逸		
墺ニ於テモ、農学ノ注意厚シ、	墺国		
仏国ニハ、只三箇所ノ農業大学校アリ、	仏国		

独逸ハ最モ農ヲ重ンス、全国ニ二十五箇所ノ試験場アリ、～仏国ニハ只三箇所アリ、其目的ハ動植物ノ性質、天候地味ノ関係ニツキ、学校ニテ理上ヲ研窮発見セシコト、水土肥料ノ分析、及ヒ用法ヲ実地ニ試験シテ、其結果ヲ衆ニ報シテ弘ムルニアリ、英国ニ於テハ、勧農社ニ於テ試験研究ヲ遂ケ、	独逸、仏国、英国		
工業ハ、人民ノ生活ヲ便利ニスルノミナラス、 造船術ハ、一大学科ヲ開キ、	欧羅巴洲工業 総論		⑤210

帰　路　航　程

「カルカタ」府ハ、～大学校ハ数所ニアリ、英学ヲ授ケル校アリ、「ヒンドス」(即チ印度ノ謂) 教ヲ布キ、「モゴメット」ヲ布ク学校モアリ、「タルポイント」校、「エジャチフ」校ノ両校ハ、理科工芸ノ学中ニ於テ、桀越ナルモノトス、	榜葛剌海ノ記 「カルカタ」府	8.14	⑤297-299
申江ヲ下ル三英里余ニテ、造船場ニ至ル、～場ノ区域内ニ学校（現著者注、大久保1976に記載なし）アリ、英、米、独三国ノ教師ヲ雇ヒ、生徒ヲ教育ス、	支那海航程ノ記、上海、 造船場、 訪問	9.4	⑤335
さらにベルンでは、学校や博物館、図書館などを見学し、	校注者解説		⑤357

資料２　教育関係施設訪問旅程

Reference mat. 2. The Iwakura Embassy's schedule for visiting to Educational Institutions.

凡　例

1．表において**太枠内**（漢字・片仮名）は岩倉使節団（「回覧実記」）本隊関連。

2．細枠内（漢字・平仮名）は上記１.を除いた文献によるもので、主に田中不二麿理事官、木戸孝允副使節たち関連。

3．日付は、陰暦・陽暦変換プログラム（**補足１**）で陽暦にした。「明治～」、または「漢数字」は陰暦である。「回覧実記」では日付変更線を考慮して一日重複させているので変換プログラムをそのまま利用した。原著で現地日付のものは記述のままにしたので、表示が一日違う場合がある。

4　固有名詞で違った読み方のものは、原著者の読みのままにしてある。

1871/12/23（明治4/11/12）横浜発（文部大丞田中不二麿は理事官として岩倉使節団と共に横浜発）。
1872/1/22サンフランシスコ、「ランマン女学校」「リンコールン」小学校。
1872/1/22午前、公使と領事館の案内で大使一行（恐らく田中らを含めて）小学校３校、ランマン（または「デンマン」）女学校・某男子校・「リーコールン」共学校（A,B）（**補足８**）。1/23（十二月十四日）デンマン中学校（アフマースクール）（『回覧実記』では「ランマン」女学校とある）を見学。～次にリンカーン中学校を訪れた。～アメリカの公立小、中学校の制度について調査を命ぜられた文部大丞田中不二麿ほか五、六名が先週の金曜日に、ブッシュ街のシティ・アカデミイ（カレッジ）の校長J・K・ウイルソン教授の案内で、今挙げた中学校のほか、コスモポリタン・ボーイズ高校、シティ・アカデミイを訪れたとの記事が「サンフランシスコ・クロニクル」(1872・1・23付）に見られる（T49-51)。
1/28「オヽクランド」ノ学校、随行ノ官員ヲ派シテミセシム。
1/28大使随行の官員（田中らのことか）オークランド市の小学校・兵学私校・盲唖院・大学校（A)。1/29（十二月二十日）～文部大丞田中不二麿とその部下らが視察に赴いたものか。まずオークランドの小学校を訪れた～。次いで訪れたのは、私立のミリタリースクールである。～次に～、山腹にある盲唖学校であった。～最後に訪れたのは、町の中にある大学（「オークランド大学」？）である（T61)。
2/7ソルトレーク、「モンテインホール」学校、「モルガン」商学校2/7「モンティンホール」普通学校・「モルガン」商業学校（A,B)
2/26シカゴ、小学校二ケ所。
2/26大使一行シカゴ市中を見学し、その際小学校２校。ただし木戸は別の行動をとり、大学を訪ね天文台等を見、学長の案内で学内を巡る（A,B）（**補足９**）。3/8当時アンドーヴァー神学校の学生だった新島襄、ワシントンで岩倉使節団の田中不二麿文部理事官と会い、アメリカの教育制度調査への協力を要請されて、承諾（O)。3/9田中は通訳および高官と教育局を訪れ、合衆国教育の起源・発展について情報を得、さらにワシントン区内の教育機関の見学を行った。(小林p.86注）同日、田中・二人の随員（長與・中島か）・新島は一私立女学校を訪問。3/14田中一行（田中、中島永元、内村良蔵、新島、または富田命保が通訳)、白人向けのフランクリン・スクールを視察。3/15（二月七日）新島らは～教育局長官イートン氏の案内で私立学校を訪問（T132)。3/15イートンの案内で私立女学校を訪問（O)。3/15～4/6フィラデルフィアよりの招待状を受け、理事官肥田為良ほか８名が60ヶ所以上公共施設、出版、学校、教会、製鉄、造船工場などを視察（Go)。
(3/20全権委任状下付のため大久保副使3/21伊藤副使、日本へ出発、5/1日本着)。
3/21木戸・田中・４人の随員・新島ら、ワシントンのColumbia College訪問（B, E)、コロンビア・カレッジ（現ジョージ・ワシントン大学）訪問（木戸、田中、新島、富田ほか３人の使節団員）（O)。3/22（二月十四日）木戸副使と属僚四名、新島らは、“ワシントン・カレッジ”訪問（T136)。3/23木戸（田中も同行か？)、イートン・ウイルソンの案内で「罪童学校」訪問（B）（**補足10**)。

3/24（ワシントンにて）更ニ黒人学校（補足11）。

3/24（二月十六日）木戸は～罪童学校”（「ジョージ・ワシントン少年院」を見学（T138）。田中は新島に欧州への同行を求め、了解される（O）。4/1ワシントンを離れた田中と新島はペンシルバニア州のハリスバーグ、フィラデルフィアの孤児向けの学校、刑務所、養老院、小・中・高校、障害者施設を訪問（O）。4/5田中と新島インディペンデス・ホール訪問（O）。4/5（二月二八日）大使一行はデ・ロング公使の案内で市内の学校や諸器械などを見学したのち、ミッションスクール（女子生徒のみ数百名）訪問。同日田中らが公共教育局招待で公立学校をいくつか訪問。その中にはワイオミング校（スクール）、女子高校、師範学校、中央高校などが含まれ、～（ワシントンの「ザ・デイリーモーニング”・クロニクル」1872・4・6付）（T143）。4/5フィラデルフィアでGerard College。4/6救貧院など。4/8小学校・中学校・女子師範学校（F）。4/11～2週間田中と新島は、母校のフィリップス・アカデミー、アンドーヴァー神学校、アボット女学校訪問。アーモストへ移り、新島の恩師シーリー教授宅に滞在。アーモスト大学、マサチュセッツ農科大学、ホリヨーク女子セミナリー、聾唖学校を見学（O）。4/13ボストンにて、Central Churchの日曜学校。4/14 Harverd College 、4/15・16市の公立学校（F）。

4/17「スミソニヤン」学校ヨリ招待状来ル、山口副使之ニ赴ク～諸国ニ建タル学校ノ一ナリ、～中央ニ学校アリ、～府中屈指ノ大校ナリ

4/18アンドバーを訪れ、Phillips Academy, Theological Seminary（F）。4/24アマーストにて、Amherst College のSeeleye教授とState Agricultural Collegeの学長W. S. Clark の案内でHolyoke Seminary と農科大学。4/25アマースト大学。26日、唖学校Northampton Institute（E, F）。4/27二人はニューヘブンに移り、イェール大学、シェフィールド科学学校、聾唖学校、高校、師範学校、州立感化院、精神病院訪問（O）。4/29ニュー・ヘブンにて、Yale College, Library, Cabinets, History and Art Gallery, Sheffield Scientific School 。4/30聾唖学校、Brown School（ハイ・スクール）、ニューブリテンの州立師範学校、感化院。5/2三つの公立学校（E, F）。5/3（三月二十七日）大使、副使以下の日本人二十名余は、国務長官フィッシュ、海軍長官ローブソンらと共にアナポリスにある海軍兵学校（1845年開校）を見学（ニューヨーク・タイムズ1872・5・5付）（T158）。5/3田中、新島は、ニューヨークへ移動。～小・中学校、コロンビア大学～、刑務所など見学（O）。

5/4一行スヘテ、～アナポリスニ至ル、～（海軍）学校ニ入ル。

5/7ニューヨークにて、初等中学校・City College。5/8感化院・職業学校（F）。5/11まで滞在し、岩倉使節団と分かれ、ジャージーシティより汽船Algeriaに乗船して英国に向う（E）。5/21リバプール着（F）。5/21二人は英国のリヴァプールに上陸。マンチェスターに向かう。その後、二人は、カーライル、グラスゴーエジンバラを順に巡り、国教会系や非国教会系の普通学校、エジンバラ大学、植物園、実業学校などを訪問（O）。5/27グラスゴーに来り、Established Church Normal School を見学。5/28Free Church Normal School（F）。5/29エジンバラに着き、5/30 Edinburgh University。5/31二つの中学校Edinburgh Academy Collegiate Institute 。6/2 U. P. Church's Sunday School。6/3 Mory House Normal School Industrial School（F）。6/5田中、新島は、ロンドン着。～7/16 までの間に、キングス・カレッジ、公・私立学校、盲唖学校、精神障害者看護施設、孤児院、大英博物館、ロンドン塔、グリニッジ天文台、オックスフォド・ケンブリッジ大学訪問（O）。

6/10－11（ウェストポイント陸軍）学校ニ至ル。

6/11（五月六日）、ウェスト・ポイントに着く。陸軍士官学校（1802年開校）の所在地～。岩倉一行のウェスト・ポイント訪問については、「ニューヨーク・タイムズ（1872・6・12付）」が比較的くわしく報じている（T172-177）。6/13 St. Morll's Training College、6/17 Home and Colonial School on Gray's Inn Road・King's College、6/19 University College、6/20 School of Art and Science in South Kensington（F）.6/19 学校を見るパーマスクールと云頑児を教育する学校と云（K190）。

（6/22大久保・伊藤、再び米国へ出発）。

6/27盲学校・少年院・救貧院、6/28 Curzon School、7/4聾唖学校、7/5養護院、7/7棄児院、7/8オックスフォード大学、7/9ケンブリッジ大学、7/10農村学校（F）。7/16ロンドンをたちパリーに（F）。7/16田中、新島はパリー着、今村和郎と合流。学校は夏休みのため数日後スイスへ向かう。スイスでは、ジュネーブ、ベルン、チューリッヒを順に訪れ、公立女子学院、小学校、図書館、博物館、医学校、家畜病院、連邦議会、州議会、盲唖学校、大学など見学。新島は一人でシャモニーの旅（O）。7/20 パリー出発。

（7/22朝、大久保・伊藤ワシントン帰着、午後、条約改正交渉打ち切り）。

7/24ジュネーブ、Academy と女学校。26日、小学校（F）。7/29ベルンにて、物理学校・Gymnasium（F）。

7/29ヒラデルヒヤ「ヂラルト、コルレーチ」大学校、7/31ニューヨーク少年教会堂（略学校ニ類ス）。

8/1チューリッヒを訪れ、8/2大学、工科大学、3日、盲唖学校（F）。

8/2ボストン学校（名称不明）8/6英国ノ「キュナルト」会社ノ郵船、「オリンハス」号ノ汽船ニ乗込メリ、～8/16クインスタウン着。

8/6新島はベルリンに到着。田中・今村と合流、近藤昌綱も加わる。夏休みのため、ロシアの首都サンクトペテルブルグへ移動。巨大な図書館、大規模な孤児院訪問（O）。8/9セントピータースブルグ着。8/12棄児院。8/13美術館見学（F）,そのほか大学・師範学校見学（E）。8/16ベルリンにもどる（F）。8/16田中一行はベルリンに戻ったが、応対予定の文部大臣側の準備がまったく整っていなかったので、オランダに行く。オランダでは、ハーグ、ライデン、アムステルダムを順に巡り、公立学校、幼稚園、大学、王宮、シーボルト博物館等を見学（O）。8/19ハーグ、小学校。8/23精薄児学校（F）。8/26ライデンに移り、数日滞在して大学・女学校。アムステルダムに行き、職業学校その他種々の学校（E, F）。8/29軍艦の水夫学校に至る、～14歳より16歳までのものを入校（K220）、9/2ハンブルグを経て、コペンハーゲンに来る。（E）、学校（D）。9/2デンマークのコペンハーゲン。市内の学校、見本市を見学。数日後ベルリンに戻り、大学などの諸学校を見学。新島は同月上旬に「理事功程」の草稿執筆着手（O）、9/11学校に至る（K230）。

9/17（ロンドン）府中ノ小学校ヲ一覧ス、10/2船学校ヲ見回ル～凡四艘アリ、10/5牢獄ニ至ル、～勉強シテ10/8「オウン」学校ニ至ル、10/14大学校＜ユニヴァルシチー＞ニ至ル。

9/21ブライトン之学校へ（K237）、10/2四艘の学校船に至る（K243）、10/8ホリコートに至る～又学校（K249）。
10/17木戸はエジンバラに止まり、商業学校を訪問（IR ②89）10/18 メルチェントコンペニー学校に至る此学校は皆女也（K258）。

10/23船学校、10/25半日ハ場～半日ハ校、10/26学校（孤児院）ニ至ル。
10/25半日学校に入半日職場に（K263）、10/26孤児院に至る（K265）、11月、田中は一時、ベルリンで合流した長与専齋、恐らく今村と共に、当時使節団本隊が滞在していたイギリスへ渡り、医学教師雇用契約に関して木戸と相談している。田中はベルリンに戻り、長与はアムステルダムに移り、今村はロンドンに留まった。その間、新島はホテルでヨーロッパ各国の学校規則や報告書の翻訳に没頭（O）。
11/4製造場ニ至ル、～場内ニ学校ヲ設ケ～
12/16ロンドン発、パリ着（IR③101）。
1873年1月1日：改暦：明治5年12月3日を明治6年1日とし、以後陽暦となる。
1/3「アンファンド、ツルウェー」ニ至ル、棄児院ナリ～
1/3田中は新島とわかれ、ベルリンを出発、ウィン・ローマを経てパリに向かう（E,D）。
1/15陸軍学校ヲ回覧ス、1/20建築学校、礦山学校ニ至リ、1/25盲院ニ至ル。
1/20道路橋梁学校に至る（K309）、1/23唖院へ至る（K311）、1/25盲院へ再至り（K312）、1/28パリにて、木戸・田中・今村は中学校同行し（**補足12**）。1/30田中・長與（恐らく中島・内村らも）パリを出発、2/1マルセーユよりスエズを経由で帰国の途につく。2/17～3/9パリ、ブリュッセル、ハーグ、ベルリン（IR④123、⑤153）3/24田中は日本に帰着（B, G）。
3/23ベルリン、小学校ニ至ル～大学校ニ至ル、3/28ベルリン発ロシアへ（岩倉、木戸、伊藤、山口、久米）（大久保帰途）。
3/30 ロシア、セントペートルボルク着（IR⑥173）。
4/9育嬰院ニ至ル、聾唖院モ、4/11医学校附属ノ解剖寮ニ至ル、4/14セントペートルボルク発、（4/16木戸帰途）、4/18～23コペンハーゲン着、4/27 兵学校ニ至リ、4/29小学校ニ至ル。
4/9棄児院に至る～唖院に至る（K344-5）、4/24ストックホルム着（IR⑦187）、5/1-11ハンブルグ゛、ミュンヘン、フローレンス、ローマ（IR⑧205）（5/26大久保利通帰国）。
5/27 ベニス着、6/3～7/18、ウィーン、スイス、ベロン、6/27府ノ小学校ニ至ル、6/29ジュネーブ、リヨン、マルセーユ。
（7/20岩倉大使帰途につく）。
（7/23木戸帰国）ナポリ、ポートサイド、スエズ、アデン、ガール、シンガポール、サイゴン、香港、上海（IR⑨p. 223）。 9/4申江ヲ下ル三英里余ニテ、造船場ニ至ル、～場ノ区域内ニ学校アリ。
（長崎、神戸を経て、9/13岩倉大使横浜着）。
9/8「理事功程」米国の部2巻を田中不二麿が太政大臣三條実美に上申、引き続き英国の部1巻上申。12月、上述三巻の和装本が文部省より出版　1875（明治89年1-9月、巻之四～十五、11/4全15巻、（明治10年）/6一冊の活版本として再版。
1878（明治11年）/12（奥付は10月）「米欧回覧実記」刊行御用刊行所博聞社。

Compilation of the educational terms in "Bei-O Kairan Jikki*"
—Visit of the Iwakura Mission to educational institutions—

Tsutomu Murase
Kazutoshi Tanaka

The Iwakura Mission extraordinary and plenipotentiary was dispatched to the USA and Europe to make a tour of inspection for a year and 10 months (1871-73) . The Mission was first proposed by Guido Verbeck, a Dutch missionary, and was named after and headed by Tomomi Iwakura as ambassador, assisted by four vice-ambassadors.

Their purpose was three-fold: 1) To visit signatory nations concluded in the days of the Tokugawa Shogunate. 2) To renegotiate the unequal treaties with the USA and others. 3) To gather information on education, technology, culture and military, social and economic structures from Western countries in order to effect the modernization of Japan.

The members were administrators, scholars and about 60 students, over 100 people in all. They visited the USA and 12 European countries, making thorough investigations into each country's politics, military affairs, trade and industry, education and culture. On their homeward journey, they made a brief visit to 7 spots. The Mission were impressed by the modernization in Western countries, which later made them take the initiative in modernizing Japan.

Kunitake Kume, a historian and official diarist, kept a detailed record of all events and impressions.After his return to Japan, he compiled and published the observation in "the Bei-O Kairan Jikki" in five volumes. The Jikki has encyclopedia knowledge; the terms of science and technology, and of agricultural technology are already classified and compiled.

In this paper the terms relating to education were compiled. Moreover, the educational institutions visited by the Mission during the journey were classified by countries and schools. The following results were obtained: the Mission visited many and various educational institutions.

1) Most of them were general schools: grammar schools, junior and senior high schools, and universities.
2) Vocational, technical and business schools.
3) Various institutions for handicapped people.
4) Theological schools.
5) Military schools etc.

Statistically most of the institutions were in the U.S.A. and Britain in proportion to the length of the Mission's stay, though the data used in this paper, especially those for Europe, may not cover all the institutions visited by them. The results in this paper, however, clarify qualitatively and quantitatively the Mission's deep interests in education in Western countries, which later made an important contribution to the educational administration in Japan.

* See "Graham Healey and Chushichi Tsuzuki" (2002) in references for English title of "Bei-O Kairan Jikki".